

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は平成27年4月以降、高山市中心市街地活性化基本計画に基づき「住みやすいまち」「にぎわいのあるまち」「やさしさにあふれるまち」を基本方針として各事業を実施している。

目標を達成するために設定した各事業で、外国人対応おもてなし拠点施設整備事業、高山駅東西線（自由通路）整備事業が完了し、まちなかの回遊性、利便性が高まっている。今後、時間の経過及び他の事業が完了することにより、中心商店街を中心に、営業店舗の増加など効果が現れることが期待できる。

特に、外国人対応おもてなし拠点施設「イータウン飛騨高山」が、平成29年4月5日にオープンしたことにより、本町3・4丁目を中心に、通行量及び営業店舗数の増加が期待できる。

2. 平成28年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

- ・観光客の流れが上町エリアから下町エリアに分散するよう、回遊性を高めるとともに、本町3、4丁目の賑わいを創出する取り組みをすすめていく必要がある。

- ・歴史的町並保存事業と合わせ、今後、町並保存地域の無電柱化の促進を明記していただきたい。

- ・駅舎が新しくなり、それ自体は使いやすくなったものの、車の流れ・人の流れ・自転車の流れについては、「住みやすさ」や「やさしさ」からも、かけ離れたものになろうとしているように感じるため、それぞれの流れや導線の検証等を行う必要があると考える。

- ・観光客の増加により賑わいを見せているが、定住人口は減少しており、なかでも高齢者は増加している。市街地の定住人口を増やすためにも、具体的な施策を検討している事業所などに積極的な支援を検討してほしい。

- ・イータウン飛騨高山がオープンしたことにより、インバウンド向けの飲食店が増加し、特に夕方から夜にかけての飲食店が増加したことや、外国人に留まらず、日本人観光客や地元住民も集客できている。今後も今までにない高山の魅力を発信できる拠点を様々な視点から生み出していく必要があると考える。

- ・古い町並を中心とした観光エリアについては、週末等における車両通行禁止を実施するなど、町の景観を強調するとともに、観光客が安心して散策できる環境を整える必要がある。

- ・観光地増加に伴う中心市街地に流入する車両を制限すべく、外周部に大型駐車場を整備し、シャトルバスなどによる運行を実施する必要がある。

- ・安全安心のまちづくりの観点から、防犯のため、主要通りやイベント会場などの整備時に防犯カメラの設置が必要と考える。

- ・コアシティを高めるため、介護事業、福祉事業、子育て事業などの活動拠点を区域内に誘致する必要があると考える。

・人と人との関係が深くなれば、市街地の絆ができる。より住みやすいまちとなるよう「協働のまちづくり」の取り組みをさらにすすめてほしい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
住みやすいまち	中心商店街 歩行者自転車通行量	16,369 人 (H26)	17,349 人 (H31)	17,515 人 (H28)	①	①
にぎわいのあるまち	中心商店街営業店舗数	365 店舗 (H25)	371 店舗 (H31)	366 店舗 (H28)	①	①
やさしさにあふれる まち	公共施設利用者数	349,081 人 (H25)	370,354 人 (H31)	348,414 人 (H28)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心商店街歩行者通行量」については、目標達成に寄与する主要事業「旧森邸等整備事業」などが完了していないものの、観光客の増加等により目標数値を上回った。なお「外国人対応おもてなし拠点施設整備事業」が平成 28 年度に完了し、平成 29 年 4 月にオープンしたことに伴い、今後、その事業効果として中心商店街の通行量が増加する見込みである。

「中心商店街営業店舗数」については、目標数値を下回ったが、目標達成に寄与する主要事業「外国人対応おもてなし拠点施設整備事業」がオープンしたことにより、その事業効果として中心商店街の営業店舗数が増加する見込みである。

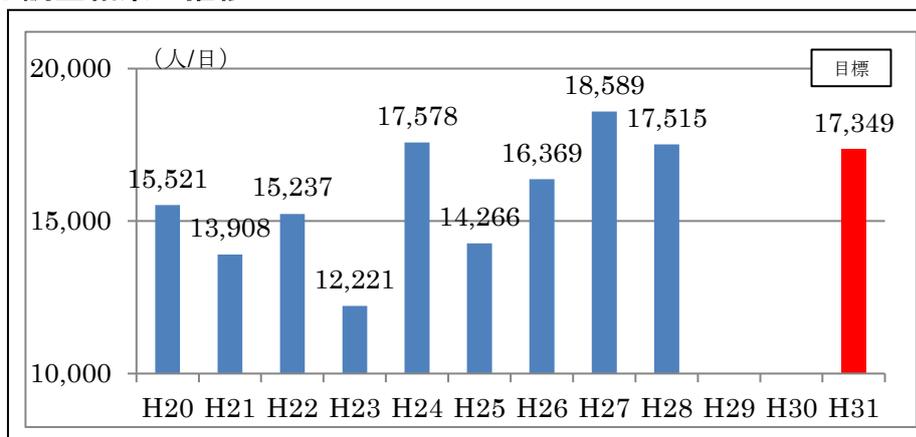
「公共施設利用者数」についても、目標数値を下回ったが、目標達成に寄与する主要事業「高山駅東西線（自由通路）整備事業」が平成 28 年 10 月に完成したことから、その効果が徐々に現れ、目標の達成は見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心商店街歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P63～P71 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H26	16,369 (基準年値)
H28	17,515
H31	17,349 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年11月の平日、休日の各1日に中心商店街の5地点において午前10時から午後5時まで計測

※調査月：平成28年11月

※調査主体：まちづくり会社

※調査対象：中心商店街5地点（本町通（北）、国分寺通、安川通、本町通（南）、さんまち通）を通過する歩行者・自転車通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 旧森邸等整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	伝統文化をテーマとした文化交流拠点施設として整備するとともに、隣接する旧図書館跡地に防災機能を持つ交流広場として整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に実施設計、平成29年度完成予定であり、事業効果として253人/日を見込んでいる。

②. 交流広場整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	高山駅周辺整備事業地内に様々なイベントの実施が可能な交流広場等を整備する。
事業効果及び進捗状況	交流広場の整備が平成28年度に実施設計、平成29年度着工・完成予定であり、その交流広場を使用したイベントによる事業効果として133人/日を見込んでいる。

③. 外国人対応おもてなし拠点施設整備事業（まちづくり会社、商店街振興組合）

事業完了時期	平成28年度【完了】
事業概要	誰もが気軽に立ち寄れることのできる店舗が集結したおもてなし拠点施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に実施設計、着工、完成し、事業効果として105人/日を見込んでいる。

④. 駅東口駐輪場整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	駅東口に駐輪場を新たに整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に着工、平成29年度完成予定であり、事業効果として6人/日を見込んでいる。

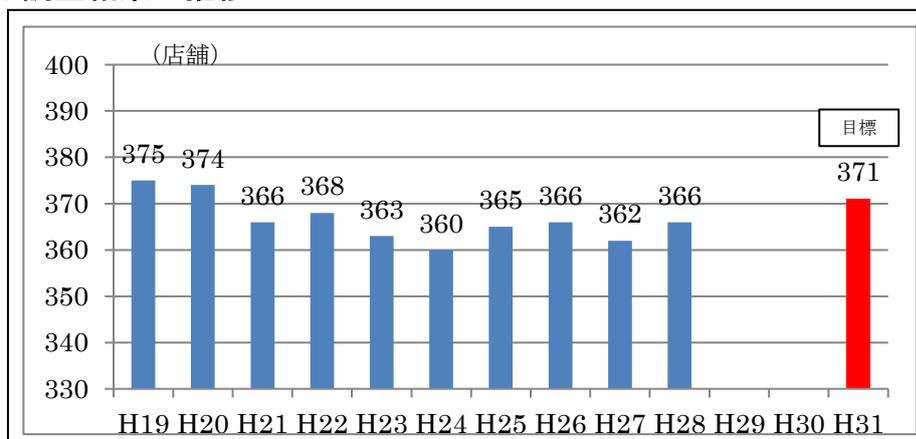
●目標達成の見通し及び今後の対策

観光客の増加等により目標数値を上回ることができたが、平成27年度より低下している要因については、平成28年度平日の調査日の天候が悪く、非常に寒い日であったため、通行量が大幅に減少をしたのが主な要因であるが、休日については通行量は増加している。

なお、目標達成に寄与する主要事業である「外国人対応おもてなし拠点施設整備事業」が完了し、「旧森邸等整備事業」については、平成29年度の完成に向け、関係機関と連携・調整中であり、予定通り進捗している。

「中心商店街営業店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P73～P76 参照

●調査結果の推移



年	店舗
H25	365 (基準年値)
H27	362
H28	366
H31	371 (目標値)

※調査方法：職員による目視

※調査月：平成28年10月～12月

※調査主体：まちづくり会社

※調査対象：中心商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 総合的な空き店舗活用促進事業（まちづくり会社）

事業完了時期	平成27年度～【実施中】
事業概要	<p>(チャレンジショップ事業) まちづくり会社が空き店舗所有者に対し意向等の調査を行い、利用者の公募、審査、選定、経営の支援までを一括して実施する。</p> <p>(アンテナショップ事業) まちづくり会社が地産品等の販売を行うアンテナショップを開設する。</p>
事業効果及び進捗状況	両事業の実施に向け、空き店舗の調査中であり、現在3件ほど所有者と引き続き交渉中である。なお、両事業完了による事業効果は6店舗増加を見込んでいる。

②. 外国人対応おもてなし拠点施設整備事業【再掲】（まちづくり会社、商店街振興組合）

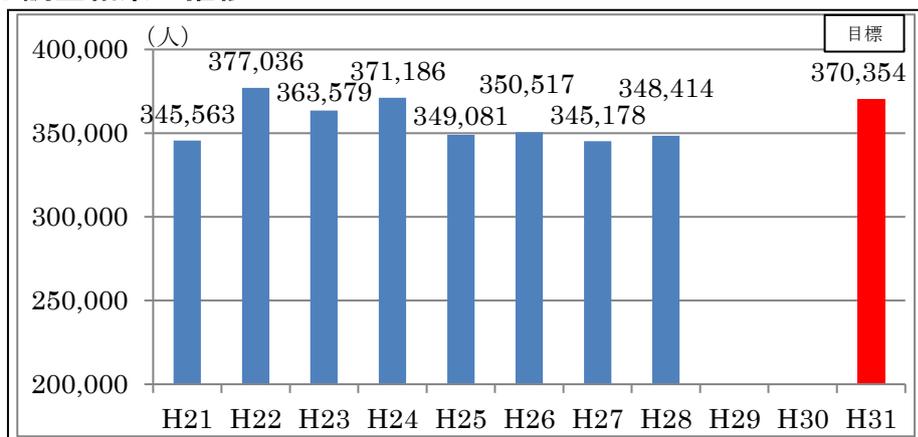
事業完了時期	平成28年度【完了】
事業概要	誰もが気軽に立ち寄れることのできる店舗が集結した屋台村を整備する
事業効果及び進捗状況	平成28年度に実施設計、着工、完成し、事業効果として105人/日を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

営業店舗数は昨年度と比較すると増加した。なお「外国人対応おもてなし拠点施設整備事業」が年度末に完了し、平成29年度にオープンしたことにより次年度の営業店舗数は大幅に増加するため、目標を達成することは可能である。

「公共施設利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P77～P80 参照

●調査結果の推移



年	人/日 (単位)
H25	349,081 (基準年値)
H27	345,178
H28	348,414
H31	370,354 (目標値)

※調査方法：各施設の利用者数

※調査月：平成28年4月から平成29年3月まで

※調査主体：高山市文化協会、社会福祉法人高山市社会福祉協議会

※調査対象：市民文化会館及び総合福祉センターの施設利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高山駅東西線（自由通路）整備事業（市）

事業完了時期	平成28年度【完了】
事業概要	駅東西を結ぶ自由通路の新設、修景・モニュメントの設置
事業効果及び進捗状況	平成25、26年度に実施設計、平成27年度に着工、平成28年度完成し、事業効果として1,437人/年を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成に寄与する主要事業である「高山駅東西線（自由通路）整備事業」については、平成28年10月に完成した。これにより、市民文化会館、総合福祉センターへの利便性が向上し、当該施設への利用者が徐々に増加し、まちなかの回遊性、利便性が高まっている。